

**アニコムグループ、最先端の高度医療を提供する
『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』メディア向け内覧会を開催
～高度獣医療の最前線を公開、産学連携による新たな取り組みを発表～**

ペット保険シェア No. 1（※1）のアニコム損害保険株式会社（東京都新宿区、代表取締役 野田 真吾、以下 アニコム損保）のグループ会社であるアニコム先進医療研究所株式会社（代表取締役社長 堀江 亮、以下 アニコム先進医療研究所）は、2025年10月1日（水）に開院した『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』にて、10月4日（土）にメディア向け内覧会を開催いたしました。

（※1）シェアは、各社の2024年の契約件数から算出。（株）富士経済発行「2025年ペット関連市場マーケティング総覧」調査



本センターは、ロボット支援手術をはじめとした最先端の高度獣医療を提供する新拠点であり、当日は多数のメディア関係者にご参加いただきました。施設紹介や登壇者によるプレゼンテーション、クロストークなどを通じて、獣医療の新たな可能性を披露しました。

■施設見学ツアー

10月1日（水）に開院したばかりの院内施設をスタッフが案内し、最新の診療設備や手術支援ロボットを公開。専門的な検査や二次診療を行う動物病院として、透明性を考慮したガラス張りの手術室やリハビリ室など、どうぶつと飼い主様双方に配慮した設計を公開しました。



■ アニコム ホールディングス株式会社 代表取締役 小森 伸昭より事業戦略・開院の説明

内覧会当日には、アニコム ホールディングス株式会社 代表取締役 小森 伸昭が登壇し、『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』開院の背景とビジョンについて説明しました。

「小さな体のどうぶつの手術には、繊細かつ最高峰の技術が必要です。しかしこの手術を高額で提供するのでは、どうぶつと暮らす方々の真の安心にはつながらない。高度で正確な手術を、安価で提供する必要があります。それを可能にするのが、リバーフィールド株式会社が提供する手術支援ロボット。保険とロボット医療とAI の見える化によって、世界中の医療をリードしていきたいと考えています。」と述べ、アニコムグループが最先端の高度獣医療を提供する拠点を開設する意義を力強く語りました。



■ リバーフィールド株式会社との共同声明

『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』では、獣医療分野において世界で初めて（※2）力覚フィードバックを用いた手術支援ロボットを導入。本ロボットには、リバーフィールド株式会社製の手術支援ロボット『Saroa（サロア）』を採用しています（※3）。

（※2）2025年2月アニコム損保調べ

（※3）手術支援ロボット「Saroa」は、ヒト医療用として厚生労働省の承認を受けている医療機器です。ただし、現時点において動物医療用としては農林水産省（MAFF）の承認を取得していません。アニコム先進医療研究所の倫理審査を経たうえで、獣医師の専門的裁量に基づき適用外使用として位置づけ、運用しております。

当日は、リバーフィールド株式会社 代表取締役社長 只野 耕太郎氏も登壇し、アニコム ホールディングスと共同声明を発表しました。共同声明の中で、只野社長は「繊細な力の感覚をもったやさしい手術支援ロボットを作りたいという思いから、独自の空気圧駆動技術により力覚フィードバック機能を実現した世界初の手術支援ロボットを研究開発しました。アニコムグループさんの協力もいただきながら、究極は自動化を目指して、人にもどうぶつ

にも、効率的でやさしい医療が提供できるように今後も取り組んでいきたいです。」と述べ、人医療だけではなく獣医療の発展を促進していく姿勢を示しました。



■クロストーク：獣医療業界を取り巻く環境について

後半のセッションでは、アニコム先進医療研究所 代表取締役社長 堀江 亮、獣医師・CMO（最高医療責任者）田村 勝利らが登壇。獣医療業界が直面する「人材不足」や「地域間の医療格差」といった課題に対し、本センターが果たす役割や今後の展望について議論が交わされました。

堀江は、獣医療におけるデジタル化・機械化の遅れを指摘し、「獣医療業界はそれぞれの施設によってオペレーションが異なり、なかなかDX自体が進んでいない傾向があります。加えて、手術自体も一期一会で同じものはないため、この部分をデジタル化するというのは難しい状況でした。この部分を今後変えていけるのがAIやロボットだと思います。また、遠隔の診療や手術も可能になることで、医療の地域格差も解消できると考えています。」とコメント。AI診断支援や画像解析技術、手術支援ロボットなど、最新技術導入の可能性についても紹介しました。田村は、手術支援ロボット導入の現場での有用性を説明。「現場で仕事をしていると、手術後に痛がって丸まっている、その子だけで我慢しているシーンによく出会います。これまで獣医療の世界でも、痛みを伴う手術はどうしても当たり前でした。ただ、手術支援ロボットを使ってみると術野が全く違うんですね。獣医師の術野を確保するために、大きな切除や骨を切断するなどが基本的にはなくなりました。人医療の現場でも言われているとおり、患者さんが抱えるかなりの痛みやつらい気持ちが大きく和らぐというのは、どうぶつでも同様だと思います。」と語り、手術を受けるどうぶつにとっても「体への負担が少ない」「回復が早い」といった利点がある可能性を示しました。



本内覧会では、最新の獣医療技術とその実践例を通して、獣医療の未来を広く伝える機会となりました。

『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』の概要

『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』は、幅広い診療分野に対応する動物病院です。

循環器部門、呼吸器部門、消化器部門、軟部外科部門、整形外科部門、脳神経部門、泌尿器部門、歯科口腔外科部門、総合診療部門を設け、各分野におけるスペシャリストが、どうぶつの診療にあたります。

あわせて、充実した検査機器を備えた研究所も併設します。獣医療の発展に資する各種研究開発を積極的に行い、予防・早期発見から専門的な医療まで一貫した獣医療体制を構築することで、個々のどうぶつに最適な医療の提供を目指します。

また、どうぶつと飼い主様に“安心”を提供できるよう、手術室をガラス張りにし、見学可能にすることで「見える」施設を目指します。

<https://jarvis.anicom-med.co.jp/>



▲外看板



▲6連手術室